

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



ふるさと 情景

VOLUME

19

日野地区
(日野地区獅子舞)



1



4



3



2

山

々に囲まれ、田園風景が広がる日野地区では、毎年10月に「日野地区獅子舞」が披露されています。

南

北朝時代に同地区に伝わったものの、昭和初期に一度断絶したものの、昭和48年には地域住民を中心とした保存会が発足し、昭和59年には市の無形民俗文化財に指定されました。元は同地区にあった春日神社に奉納していましたが、明治時代に高向神社に合祀されたため、現在では、みのでホールと高向神社で奉納されています。

演

舞は、じゃれたり、座り込んだりともまるで生きているかのよう。演者の2人は数か月前から練習を重ね、年長者から所作を教わります。演者は長らく男性だけがつとめていましたが、平成21年には女性演者による「風の舞」を完成させ、様々な催しでも披露されています。

人

から人へと受け継がれる伝統芸能。そこには時代の変化に合わせながら、伝統を守り継承するための努力と地域への熱い想いが息づいています。



1みのでホールに地域住民が集う宵宮2心と体で受け継ぐ地域への想い3平成26年の高向神社での奉納の様子4練習中に獅子頭ではしゃぐ子ども。

ふるさと のひと

鶴澤 愛果さん

数年前、高野街道まつりで見た先輩女性の演舞に心を奪われ、母と姉妹で参加するようになりました。

姉妹での「風の舞」の奉納は今年で3回目、所作はまだまだ完ぺきとはいえず反省点もたくさん。

獅子舞を通じて多くの人に出会え、先輩方の熱い想いも知りました。獅子舞は長い長い物語をみんなで紡いでいくようなもので、私もその一部になったことを誇りに思っています。



▶左から愛果さん、妹の杏実さん